

臨床遺伝学

ナンバリング M4-S1-D27

責任者・コーディネーター	臨床遺伝学科 鈴森 伸宏 教授		
担当講座・学科（分野）	臨床遺伝学科		
担当教員	鈴森 伸宏 教授、福島 明宗 客員教授、山本 佳世 乃 特任准教授、吉田 明子 特任講師、勝部 暢介 助教、三浦 史晴 非常勤講師、金杉 知宣 非常勤講師、小林 有美子 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 8コマ 16.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

遺伝学的知識は基礎・臨床両医学の分野において必須である。遺伝学の基礎と臨床に関して十分な素養を備えた医師になることを目標とする。

・教育成果（アウトカム）

医師として必要な遺伝医学の知識を習得することで、臨床における遺伝、遺伝カウンセリングなどを説明できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,4,5,6)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	臨床遺伝学の位置づけを説明できる。
2	遺伝カウンセリングの概要を説明できる。
3	染色体異常による疾患の中で代表的なものを挙げ説明できる。
4	減数分裂、配偶子形成の男女間の違いを説明できる。
5	常染色体顕性（優性）遺伝疾患の遺伝の仕組みと発症機序を説明できる。
6	常染色体顕性（優性）遺伝疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
7	X連鎖遺伝疾患の遺伝の仕組みを説明できる。
8	X連鎖遺伝疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
9	ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げ説明できる。
10	常染色体劣性（潜性）遺伝疾患の遺伝の仕組みと発症機序を説明できる。
11	常染色体劣性（潜性）遺伝疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
12	民族による疾患頻度の違いが存在することを説明できる。
13	家系図の作成について説明できる。
14	Bayes（ベイズ）の定理の基本を説明できる。
15	家系構成員におけ遺伝的リスクを評価し説明できる。
16	エピゲノムの概念・機序を説明できる。
17	エピゲノムに関連する疾患の代表的なものを挙げ説明できる。
18	がん診療を遺伝子の視点から説明できる。
19	遺伝性腫瘍の特徴とその診療について説明できる。
20	ゲノムの多様性が個体の多様性に結びついていることを説明できる。
21	ヒトゲノムの多様性がもたらす各種バリエーションについて説明できる。
22	多因子形質（疾患）における遺伝要因と環境要因の関係について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	6/2(火)	1	臨床遺伝学科	鈴木 伸宏 教授	臨床遺伝学：臨床遺伝学とは？遺伝カウンセリングとは？常染色体潜性（劣性）遺伝	1,2,10,11	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/2(火)	2	臨床遺伝学科	山本 佳世乃 特任准教授	臨床遺伝学：X連鎖遺伝、遺伝的リスクの推定	7,8,14,15	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/4(木)	5	臨床遺伝学科	三浦 史晴 非常勤講師	臨床遺伝学：がん	18,19	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/9(火)	1	臨床遺伝学科	小林 有美子 非常勤講師	臨床遺伝学：ミトコンドリア遺伝	9	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート」の該当箇所を読み準備しておくこと。所要時間 120分以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏まえ、各到達目標について100字程度でまとめること。所要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

講義	6/9(火)	2	臨床遺伝学科	吉田 明子 特任 講師	臨床遺伝学：DNAレ ベルの個体差、家系 図の書き方	12,13,2 0,21,22	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/16(火)	1	臨床遺伝学科	勝部 暢介 助教	臨床遺伝学：エピ ジェネティクス	16,17	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/17(水)	3	臨床遺伝学科	福島 明宗 客員 教授	染色体異常	3,4	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass
講義	6/18(木)	4	臨床遺伝学科	金杉 知宣 非常 勤講師	臨床遺伝学：常染色 体顕性（優性）遺伝	5,6	【事前学修】 教科書「コアカリ準拠 臨 床遺伝学テキストノート」 の該当箇所を読み準備して おくこと。所要時間 120分 以上 【事後学修】 講義で学んだことを踏ま え、各到達目標について100 字程度でまとめること。所 要時間 120分以上 【ICT】 WebClass

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	コアカリ準拠 臨床遺伝学テキスト ノート改訂第2版	日本人類遺伝学会	診断と治療 社	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～22	1,2,4,5,6				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン一式	1	講義
講義	A3複合機	1	講義資料の作成
講義	ノートパソコン MacBook Pro15 一式	1	臨床遺伝学講義
講義	ノートパソコン Let's note RZ 一式	1	臨床遺伝学講義
講義	EPSON プロジェクター	1	臨床遺伝学補講用
講義	デスクトップパソコン 24インチ ブルーiMac 4.5K Retina ディスプレイモデル	1	講義資料の作成
講義	OKI A3複合機	1	講義資料の作成
講義	オートフィードシュレッダー	1	講義資料の作成
講義	ノートパソコン Surface Laptop G03 XKQ00005	1	講義資料の作成